



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 1 月 4 日	
所属部局・職	霊長類研究所社会生態分科・博士後期課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
香川県小豆島	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
小豆島のニホンザルにおけるオスの繁殖戦略についての調査	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 29 年 9 月 8 日 ~ 平成 29 年 12 月 30 日 (114 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
銚子溪 自然動物園 お猿の国	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
社会性動物の繁殖システムを理解する上で、オスの繁殖戦略の理解は欠かせない。複数のオスが属する集団を形成する種では、オス間に優劣順位関係が存在する。母系集団を形成する種では、オスが性成熟後に集団を去ることから、集団オスと非集団オスに分類できる。社会的ステータスが異なるそれぞれのオスが、どのような交尾、および繁殖戦略をとるかを解明すべく、3か月以上の調査を行った。 方法とし、野猿公苑に訪れる2群の群内オス、群外オスを一日個体追跡し、社会行動や近接の数を記録した。群内のオスの順位関係は分かっている。群内オスについてはそれぞれ約30時間、群外オスについてはそれぞれ約20時間観察した。また、来年生まれてくる子の父子判定を行う為、対象オスや交尾が観察されたメスのDNAを採取した。子の父子判定を行った後、成果を発表する予定である。 別のテーマの研究とし、小豆島のサルにおいて有名な「サル団子」にも注目した。寒さは動物にとってのストレスに繋がり、有害であることから、動物の寒さ対策の理解は必要である。小豆島のサルは低温時に極めて大きい「団子」を作ると言う点でユニークである。しかし、巨大な「団子」が本当に寒さ対策の上で有効なのかは分かっていない。そこで、大きい団子と小さい団子の暖かさを比較した。できるだけすぐに解析を終了させ、必要ならこの冬中に追加データの採取を行いたいと思っている。 当初、小豆島のサルの「寛容さ」に興味を持って調査を始めた。しかし、私に他の個体群のニホンザルの調査経験がないため、結局分からなかった。他の個体群のサルも見てみたいが、小豆島のサルでまだまだ調べたいことがあるため、当分は小豆島での調査を継続したいと思う。	
	
サル団子	交尾の様子

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、銚子溪自然動物園お猿の国の皆様、および渡邊邦夫元教授に感謝申し上げます。

<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org